



## ふるさと会よりご報告

会長（高松市観光大使）  
池田 克彦



夏のシーズンとなりました。  
会員の皆様お元気のこと存知  
上げます。本号の発刊が遅れ

ましたことお詫びします。さて早速ですが、香川県・高松市より提供あった情報等を関係する内容と会活動をご報告します。

1. 県一般会計当初予算公表 4312億8600万円  
前年度比 2.9%増。安心で快適な暮らしづくり、などが主要事業として。詳細は県 HP を。

2. 瀬戸内国際芸術祭 2010 が 7 月 19 日～10 月 31 日の間、高松・女木島・男木島・小豆島等で開催。美しい瀬戸の島々巡りをお勧め。問い合わせ先 実行委員会事務局電話 087-813-1290

3. 東京都人会の総会が 11 月 4 日(木)18 時より都内千代田区丸の内内の東京会館で予定。

4. 塩江地区コミュニティ協議会が設立、地域ゆめづくり提案事業を受け、コミュニティビジネス・しおのえ(CB・しおのえ)を立ち上げ、木や竹など地域の自然資源を利用した物づくりや、塩江を訪れる観光客に田舎ならではの体験をして貰う主旨の事業を行う。ふるさと会として 5 月 CB・しおのえと意見交換。

5. 市制 120 周年。主なもので、明治 23 年高松市誕生、同 33 年高松築港完成、同 43 年宇野～高松間鉄道連絡船就航、昭和 4 年塩江温泉鉄道開通(花屋旅館専属少女歌劇団設立)、同 28 年内場ダム完成、同 30 年宇高連絡船「紫雲丸」沈没、同 63 年瀬戸大橋開通、平成元年新高松空港開港、同 17 年塩江町と市が合併などがありました。

6. 市議会より、宇高航路の当面存続を。間伐材搬出道整備で四万十方式を導入(19 年度から塩江町で検証)を決めました。四国八十八箇所霊場と遍路道の世界遺産登録取り組みの表明。

7. 市の当初予算を発表、一般会計 1428 億 1000 万・特別会計 1063 億 4663 万・病院事業会計 92 億 4663 万・水道事業会計 107 億 3692 万 総計 2691 億 1416 万。地域の未来を支える人づくり、文化芸術の創造と振興(瀬戸内国際芸術祭推進事業)中枢拠点機能の強化、コミュニティを軸とした協働のまちづくり(地域ゆめづくり提案事業・コミュニティセンター整備事業)など。第 5 次高松市行財政改革計画、などが策定された。

8. 高松市新病院基本計画を策定。市民病院と旧香川病院を移転統合して高松新病院を仏生山町の県農業試験場跡地に。旧塩江病院は付属医療施設として、内科・外科・整形外科・リハビリテーション科・歯科を予定、療養病床 60 床を塩江町内に設置。塩江美術館 9 月 10 日迄熊野・小林展開催。

9. ふるさと会活動。役員会の開催、別海ふるさと会総会に参加、CB・しおのえに対し塩江ニューツーリズム計画を提案。今後具体的にビジネス支援接点を。枇杷及びツリーハウスで調査委託をお願いする方向で調整。会の 22 年度事業の決定(会報の刊行・植樹・HP の活用・会員交流)と会則の変更(会員を香川県外在住者に・会名を高松・塩江ふるさと会・ビジネス支援の追加・法人会員の追加・役員の退任及び新任・青年部の新設等)年会費(個人¥2,500・法人 1 口 5 万で 1 口以上)会員(個人・法人)から、ふるさと会への支援事業助成金の新設(¥1,000～¥1,000,000)総会を 20 周年に当る来年の 23 年 4 月 3 日(日)11 時から都内 JR 四ッ谷駅前スクワール麹町で予定。

## 特集 ふるさとからの便り

### ふるさとの、山、川の古今



塩江地区コミュニティ協議会  
広報委員長 後藤安宏

高松・塩江ふるさと会の皆様ごめん下さい。小生、自然に恵まれたこの地で恩恵を得ながら半世紀以上生活させていただいております。今までには人々の暮らしや生活の過程を山にもとめ、大きく依存した事でありました。特に、この地は良質で豊富な竹の産地でもありさまざまな分野に活用され、数少ない産業の一つとして栄えた一時期がありました。人々の生活が近代化になるにつれ、山にもとめていたものが少なくなり、今では趣味以外ほとんど利用がなくなっております。そこから暮らしや、生活にもとめるものがなくなった今、荒廃が進みこの地域においてもそれが問題となっています。また、少年期香東川で遊び、夏には泳ぎここにも当時の楽しい思い出が多いこの川は、葦が生い茂り当時見かけなかった白鷺、五位鷺、川鶺等の野鳥が増加し川魚の激減で当時多く見かけた太公望の姿はいまどこにも見当たらなくなりました。安原小学校の校歌に歌われている「若鮎泳ぐ 香東の 清い流れを見下ろして」は当時を知り、過ごしてきた我々にとって自然が失われていく姿は誠に残念でなりません。山も川も過去の豊かな自然に帰ってほしいと切望している一人であります。最後となりましたがこの機会を与えていただき誠にありがとうございました。貴会の池田会長さんとは小、中学校の同級生でございます。今後ともよろしく願いいたします。(高松市塩江町安原在住)



(松風橋(吊り橋)から観月橋、後方は岳八幡。)

## 塩江地区コミュニティ協議会

この協議会は平成 21 年 4 月 1 日に発足し、今まで行政で実施していた町づくりなどの事業を、地域コミュニティ組織で、コミュニティ活動を推進し、魅力あるまちづくりを推進する組織です。その組織は連合自治会を中心としたものですが、塩江町の場合連合自治会は安原、塩江、上西の 3 つの連合自治会に区別されていますが、この協議会はそれらを併せた 1 つの組織となっています。この協議会の運営は、高松市塩江コミュニティセンターの指定管理者によりセンター長、職員 3 名で管理運営されております。

1. 総務部会、2. 福祉部会、3. 環境安全部会、4. 保健体育部会、5. 青少年育成部会、6. 地域活性化部会 7. 生涯学習文化部会の、7 つの部会からなり高松市からの町づくり交付金等で地域の町づくり事業を展開しています。コミュニティ誌「ホつとしおのえ」昨年 4 月に塩江地区コミュニティ協議会発足と同時に、この地区の情報発信を目的に広報委員会がつけられました。この委員会は 7 つある部会からそれぞれ委員が選出されバランスの良い布陣となっています。コミュニティ誌「ホつとしおのえ」の名前の由来については、女性達の発案でこの塩江をイメージすると、「温泉」、それは「ホット」であり、また、同時にホットな情報をとの思いも含まれております。掲載内容については、1. 独自色をいかしたオリジナルなものとする。2. バランス良く有意義で偏らない。3. 文書ばかりでなく、イラスト、写真なども取り入れた見やすさ、読みやすさを追求しながら 3 か月に一度発行、毎月委員会を 1 度開いて分担して集めた情報を整理しながら進めています。1 年が経過しましたが親しみを感じられたらの思いで取り組んでおります。

## 塩江での生活



商工会青年部

松岡 耕一朗

私が塩江に帰って来て商売を始めたのが、今からちょうど十年前でした。塩江で生まれ育ったのですが、高校を卒業して以来、あまり塩江には帰っておらず、塩江の事をほとんど知りませんでした。たまに帰って来ても、あまり興味がなかったもので、周りの景色を、気にしてみることも無く、今の職場である、行基の湯や、道の駅の存在さえ気がついていなかったのです。今では、楽しんで蕎麦屋をしていますが、最初は塩江で商売をするのが、凄く不安でした。まず私は調理の経験がまったく無いということ、蕎麦が嫌いなど・・・問題点が山のようにありました。でも一番の理由は塩江にうまく馴染める事ができるかどうかでした。今考えると、その不安を取り除いてくれたのが、商工会青年部でした。その商工会青年部も、幼馴染や近所の人ぐらいしか

知り合いが居なかった私には、参加することさえ苦痛でした。けれども入部してみると居心地がよく、塩江の為に一生懸命に活動している先輩方や地元の人を見ていると塩江の事に興味を持てなかった自分が恥ずかしく思え、町内のイベントなどの段取り、運営、蛍の養殖、なども進んで参加するようになり、知らないうちに塩江が好きになっていました。自分の住んでいる町が好きになると、住んでいる人、塩江に来てくれるお客様、友達、仲間の事も好きになれ、仕事も好きになれました。今まで興味の無かった景色、建物、歴史なども最近気になりだしましたが、塩江での生活はまだ始まったばかり、先は長そうなので、ゆっくりと知っていけたらいいなあ〜と思っています。(高松市塩江町塩江在住)

### 私のふるさと



光本 和代

一人暮らしの主人の母の病気を機に、塩江にUターンして十年になります。東京で洋菓子店を営んでいましたので、時間にゆとりがなく、四国は遠い故郷であり、数回訪れただけですが愛知県の海辺の町出身の私には、山の風景が物珍しく都会にない懐かしいような自然の佇まいに魅惑されました。老後は、土いじりなどしながらゆったりと生活したいと願望していましたので少し早いかなとの思いはありますが、元気で働けるうちに移住したのは正解だったと思います。若い者ともてはやされ見知らぬ地であっても直ぐに馴染んでしまいました。「何っちゃないこんな所によく来たのう。不便だろうが。」と人々は言いましたが、私にとって塩江の自然は宝庫です。春は桜が一面に咲きほこり、山が芽を吹き萌たちます。



(19年記念植樹した桜)

新緑から深い緑に変わり、秋には紅葉、内場池の水面がキラキラと輝きしばし見とれてしまいます。そして私の一番の楽しみは収穫物です。山菜や梅・桃・柿・栗・ゆず etc. 山のように採ってきては干したり、漬けたり、ジャムにします。パンやお菓子にも変身します。周りにあるものは役に立つものばかり。桜・みかん・柿の葉・よもぎ・どくだみ等を加工して飲んだり食べたり化粧品も作ります。捨てる種菜・皮と全部利用します。びわの種のシロップ漬け、柿の種の炭焼きボケ防止薬?などヒット作品です。甘酒・味噌・こんにゃく作りも手がけ仕事が増えていきます。私の塩江賛歌につられて、東京や愛知からもお客が来ますが塩江の美しい自然と温泉や私のちょっぴり怪しげなメニューも珍らしげに喜んでくれます。今後、高齢化・過疎化も進み、問題も多々できてくると思いますが、自然豊かな素晴らしい里を守るために楽しみながらがんばります。ふる

さと会の皆様にも応援よろしくお願い申し上げます。塩江帰省の折にはぜひ我が家にもお寄りください。(高松市塩江町上西在住)

### CB・しおのえ 高松塩江ふるさと会 意見交換会に参加させて頂いて



ふるさと会 青年部  
渡邊 剛至

塩江の樹々が新緑に山と大地を輝かせる初夏の候、CB・しおのえ 高松塩江ふるさと会との意見交換へ参加させて頂きました。



(意見交換会場)

今回は、ふるさと会の一企画案として「ニューツーリズム」事業計画について説明させて頂きました。「ニューツーリズム」につきましては、国土交通省観光庁の施策にもありますが旅行者の「体験」「交流」ニーズに応える為に地域の資源を活用する新しい観光形態を指す総称です。[http://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/sangyou/new\\_tourism.html](http://www.mlit.go.jp/kankoch/shisaku/sangyou/new_tourism.html)

旅行の個人化と共に、旅行者ニーズも“十人十色”さらには“一人十色”と言われるほど多様化し、さらには成熟化によって、旅行者はより本物を求めるようになっていきます。また、地域に根付いた「自然」「歴史・伝統」「産業」「生活文化」等、これまで旅行の対象として認識されなかった地域資源が新たな観光、旅行の目的となってきている中で地域の側では、地域の再生や活性化、観光を通じて取り組もうとする流れが全国で生まれています。地域に根ざし、地域ならではの資源や文化を護り育てようとする取り組みや、観光により活性化しようとする取り組みの中で、地域ぐるみで新しい旅行商品の創出が問われていることから最も適した歴史ある塩江の自然と文化、産物を旅行者により体感して頂く為、塩江の皆様と共に郷土に対する思いから「ふるさと会」よりニューツーリズム事業計画を説明させて頂いたしだいです。CB・しおのえの皆様も「しおのえ古民館」を通じて伝統文化の体験やイベントの事業を推進されていることからニューツーリズムに通ずるところがあると考えられます。意見交換会に参加させて頂き、都市部に住む旅行者のニーズを知るふるさと会と地域のCB・しおのえの皆様との接点をより深く広めることにより大きな発展に繋がることを確信した会合でした。塩江地域の活性化へ一助となればとの思いはより強くなり今後へ望む所存です。(東京都稲城市在住)

### 離れてみて気付くもの



ふるさと会 青年部  
佐藤 光伯

もう塩江の方からはぼつぼつと

ホテルの便りが聞かれるようになりました。そんな5月も終わりかける頃、塩江に帰省してまいりました。私は上京の為、塩江を離れて約10年になります。上京した当時は故郷に対する思い入れも薄かったのですが、年が経つことに故郷のありがたみをしみじみと感じております。また、東京にいる友人からはこんなことも言われました。「田舎があるって良いよね。」なんのこともわからなかったこの言葉も、今では少しわかってきたような気がします。そんな故郷の事をインターネットで調べて、今回、ある面影残る場所巡りをして参りました。それは、『ガソリンカー』の面影探しです。今流行りの鉄道マニアではないのですが、塩江中学校へ通う為に毎日、自転車で駆け抜けた道を違う角度で見ました。正式には琴平電鉄塩江線といい、日本内地における、史上唯一の非電化標準軌鉄道線であったとされています。それほど貴重なものが戦争の影響で無くなってしまったことを寂しく思っています。もし、ガソリンカーが残っていたならば、昨今の鉄道ブームもあり、きっと賑やかで情緒あふれる街になっていたのではないのでしょうか？しかし面影は残っており、トンネルや橋脚は今もなお、塩江の風景に一体化しています。



(東香川に残る橋脚)

今回は、ガソリンカーの面影を探しましたが、他にも沢山、貴重なものが眠っているはず。次回、帰省する際はまた違ったものを探そうと思っています。以上、ガソリンカー面影巡りの回でした。

(東京都板橋区在住)



### 事務局よりお知らせ

1. CB・しおのえとビジネス支援事業を今後進めます。枇杷(びわ)の種とツリーハウスの件でふるさとに情報お持ちでしたらお寄せください。
2. 22年度個人会費¥2,500 納入のお願い。郵便局口座記号 00150-2 : 口座番号 196649 : 加入者名(口座名) 首都圏ふるさと塩江会。法人会費も1口5万で1口以上、ふるさと会への支援事業助成金¥1,000~¥1,000,000のお願い。
3. 9月秋刀魚祭り、10月産直フェア予定。会員交流として、瀬戸内国際芸術祭に7月19日~10月31日の間、高松・女木島・男木島・小豆島等の島巡り・塩江紅葉祭りを後日ご案内予定。
4. ふるさと会顧問で元塩江町議会議員の黒川恵氏が逝去されました。生前ふるさと会へご支援を戴きました。ご冥福をお祈りいたします。

### 編集後記

昨年セカンドステージツアー及び稲刈り・びわ灸ツアーのご縁で、関西及び九州の方がふるさと会の会員として加入されました。今後も香川県外在住者を対象に、香川・高松・塩江のふるさとを知って頂く為、会員募集を行っていく所存です。会員のご紹介を事務局迄お願いします。次号(21号)は今秋発行を予定します。

(編集人 矢田 敏雄:渡邊 剛至)